

令和 2 年度山口県公立高等学校入学者選抜

学力検査の結果の概要及び今後の学習指導に向けて

令 和 2 年 4 月

山 口 県 教 育 委 員 会

# 目 次

ページ

---

○ 令和2年度山口県公立高等学校入学者選抜のための 学力検査の結果について	1
○ 各教科の結果について	
国語	2
社会	4
数学	6
理科	8
英語	10

## 令和2年度山口県公立高等学校入学者選抜のための 学力検査の結果について

### 1 出題の概要

令和2年度の学力検査の出題については、中学校教育の充実と発展に資するよう、中学校学習指導要領に準拠しつつ、以下のとおりとした。

- 基礎的・基本的な内容と応用的な内容について、均衡を図って出題した。
- 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等をみる問題を出題した。

### 2 結果の総評

- 各教科とも基礎的・基本的な事項に関する問題については、おおむね平素の学習の成果が表れていた。
- 表やグラフなどの資料から分かったことをまとめて適切に表現する力をみる問題や、論理的に考えたり柔軟に思考したりする力をみる問題については、更に努力が必要な状況がみられた。
- 今後とも、学習内容と生活場面・実社会との関連を考えながら学習することにより、学ぶことの意義や有用性を実感し、学習に対する興味・関心を高めることが必要である。また、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けるために、主体的に学習に取り組む態度を養うことが大切である。

## 1 出題の特徴

- 文学的文章や説明的文章について、基礎的・基本的な事柄について出題するとともに、登場人物の心情や論理の展開の仕方などを、文脈に即して適切に捉える力をみる問題を出題した。
- 古文及び漢文について、古典を読むための基礎的な力とあわせて、話の展開や表現の仕方を確かめながら内容を捉える力をみる問題を出題した。
- 作文の問題について、話合いの内容を踏まえて、題意に即した必要な材料を集め、適切にまとめて文章にする力をみる問題を出題した。

## 2 結果の概要

- 文法についての理解には課題がみられたが、基礎的・基本的な問題及び文章の内容を的確に読み取る問題はできていた。
- 古典を読むための基礎的な力をみる問題はできていたが、古典の内容を的確に読み取る力、適切な表現を考える力をみる問題は、いま一歩であった。
- 作文については、必要な材料を適切にまとめて表現することができていないものがみられ、必ずしも十分とはいえなかった。

## 3 課題がみられた問題例

### 《問題例①》

二 〈問題文は、細川英雄「対話をデザインする ― 伝わりとはどういうことか」から。ここでは省略。〉

(七)「自分あつての情報」とはどういうことか。次の文がそれを説明したものとなるよう、(中略)、Ⅱには適切な内容を「自分の固有の立場」という言葉を用いて、四十字以内で答えなさい。

現代社会は、多くの情報であふれているが、(中略)、Ⅱことで、情報を活用することができるということ。

**正答例** 自分の固有の立場で必要な情報を選択し、その内容を理解した上で自分のことばで語る

#### 【解答の状況】

「自分の固有の立場」という言葉を用いながら、説明に必要な語句を適切にまとめることができていない解答が多くみられた。

#### 【課題】

文章の展開に注意して内容を的確に読み取り、条件にしたがって適切にまとめること。

## 《問題例②》

四 〈問題文は、「淮南子」から。ここでは省略。〉

(三) 次の会話は、「迹に循ふ者は、能く迹を生ずる者に非ざるなり」の解釈に関する、AさんとBさんのやりとりである。Ⅰ、Ⅱに入る適切な内容を答えなさい。なお、Ⅰには五字以内の現代語で答え、(省略)

Aさん 「鸚鵡」の例では、鸚鵡は人の言葉のⅠことはできるが、言葉を上達させることはできないということが、書かれていました。

Bさん そうですね。この鸚鵡の例と対応させて考えてみると、「迹に循ふ者」の例は、ただ単に先人の考えをそのまま受け入れたり、先人の行動をそのまま行ったりするだけで、後世に名前を残すことはできないということになりますね。  
(省略)

**正答例** まねをする

### 【解答の状況】

「発言する」、「身に付ける」といった、漢文の内容を的確に読み取れていない解答や会話文の内容を踏まえていない解答が多くみられた。

### 【課題】

漢文や会話文の内容を的確に読み取るとともに、適切な言葉で表現すること。

## 4 今後の学習指導に向けて

### ○ 文章の展開に即して内容を的確に捉える力の育成

文章の中心的な部分と付加的な部分、具体的事例と筆者の意見などを読み分けることや、単語が文中で果たす役割、指示語、比喩的な表現、言い換えなどに注意しながら文脈の中における語句の意味を正確に理解することで、文章の内容を的確に捉えることができるようにする。

### ○ 理解した内容を適切に表現する力の育成

文章の内容を要約したり、自分の考えをまとめたりする活動に加えて、図表や絵などを含めた様々な情報を活用して、目的や場面に応じた適切な言葉で自分の考えを表現できるようにする。

### ○ 語彙を豊かにし、思考力を養う活動の充実

読書の幅を広げることで語彙を豊かにするとともに、古典を含む様々な文章を読み比べて、構成や表現の仕方について考えたり、自分の意見をまとめたりしながら思考力を養う。

## 社 会

### 1 出題の特徴

- 社会的事象に関する基礎的・基本的な知識や概念の理解、技能の習得の程度をみる問題を出題した。
- 地図や統計などの資料を活用し、考察した結果について、適切に表現する力をみる問題を出題した。
- 社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察する力をみる問題を出題した。

### 2 結果の概要

- 基礎的・基本的な知識や概念の理解をみる問題については、よくできていたが、一部に課題もみられた。
- 地図や統計などの資料を活用し、考察した結果について、適切に表現する力をみる問題については、おおむねできていたが、一部に課題もみられた。
- 社会的事象の意義や特色、相互の関連を多面的・多角的に考察する力をみる問題については、必ずしも十分とはいえなかったが、学習の成果がみられた。

### 3 課題がみられた問題例

#### 《問題例①》

1 (略)

- (3) 1853年、アメリカ合衆国のペリーが浦賀に来航し、江戸幕府に日本の開国を要求した結果、1854年、幕府はアメリカ合衆国と条約を結び、開国した。この条約を何というか。答えなさい。

**正答** 日米和親条約

#### 【解答の状況】

「日米修好通商条約」とする解答が多くみられた。

#### 【課題】

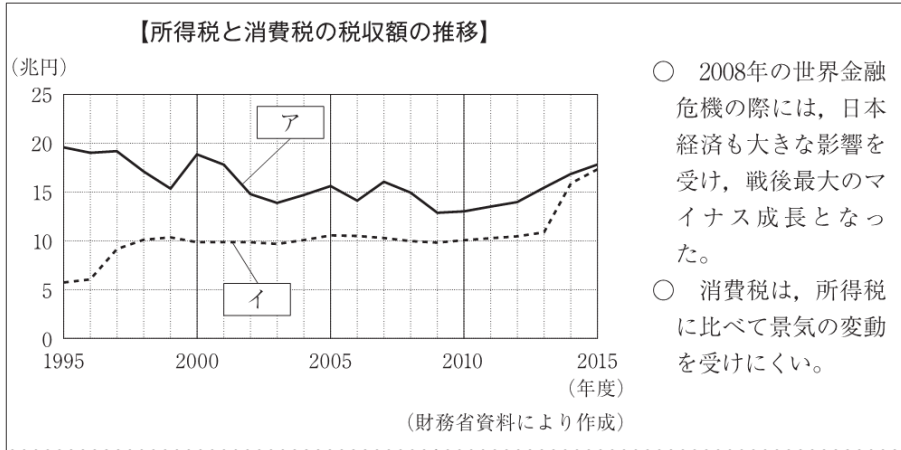
歴史的事象を理解する上で必要となる基礎的・基本的な知識や概念を確実に身に付けること。

《問題例②》

4 (略)

- (6) 下線部⑥に関連して、次の資料 I は、Hさんが作成した展示資料の一部である。また、a、bの文は、所得税と消費税のいずれかの特徴を述べたものである。資料 I のグラフ中の「ア」、「イ」と、a、bの文のうち、消費税を示しているものの組み合わせとして正しいものを、下の1～4から一つ選び、記号で答えなさい。

資料 I



- a 所得に関係なく税率が一定で、低所得者ほど所得にしめる税負担の割合が高い。  
b 税の支払い能力に応じた税負担を求めるため、累進課税が適用されている。

**正答** 3 イー a

**【解答の状況】**

資料 I から消費税を示しているものは正しく選べたが、消費税と所得税のいずれかの特徴を述べた文のうち、所得税の特徴を述べた b の文を選ぶ、「4 イー b」とする解答が多くみられた。

**【課題】**

社会的事象に対する関心を高め、学習した内容と社会で実際に起こっていることを関連付けて思考・判断すること。

4 今後の学習指導に向けて

○ **基礎的・基本的な事項の確実な定着**

時事的な話題や身近な生活体験などを通して社会的事象に対する関心を高め、社会科の学習を深める上での基礎的・基本的な知識や概念が確実に身に付くようにする。

○ **様々な資料を活用して多面的・多角的に思考し判断する力の育成**

地図、年表、写真、新聞、統計などの資料に平素から親しみ、内容を正しく読み取るとともに、読み取った内容を他の情報と関連付けて考察し、公正に判断する力を育成する。

○ **作業的・体験的な学習活動を通して適切に表現する能力と態度の育成**

観察や調査を実施し、その過程と結果を報告書にまとめ、発表するなど、問題解決的な学習活動の充実を図ることなどにより、考察し判断したことを適切に表現したり、それらを基に議論したりする能力と態度を育成する。

# 数 学

## 1 出題の特徴

- 基礎的・基本的な内容について、知識や概念の理解及び計算技能の習得の程度をみる問題を出題した。
- 数と式、関数、確率などについて、理解の程度をみるとともに、数学的な見方や考え方及び数学的に表現し処理する力をみる問題を出題した。
- 図形の性質や計量について、理解の程度をみるとともに、論理的に思考する力及び数学的に表現する力をみる問題を出題した。

## 2 結果の概要

- 基礎的・基本的な内容について、知識や概念の理解及び計算技能の習得の程度をみる問題については、よくできていた。
- 理解の程度をみるとともに、数学的な見方や考え方及び数学的に表現し処理する力をみる問題については、無答が多く、十分ではなかった。
- 理解の程度をみるとともに、論理的に思考する力及び数学的に表現する力をみる問題については、十分ではなかった。

## 3 課題がみられた問題例

### 《問題例①》

4 (略)

(2) 下の図のように、関数  $y = \frac{1}{4}x^2$  のグラフと正方形 ABCD がある。2点 A, D の  $y$  座標はいずれも 24 であり、2点 B, C は  $x$  軸上の点で、 $x$  座標はそれぞれ  $-12$ ,  $12$  である。

関数  $y = \frac{1}{4}x^2$  のグラフ上にある点のうち、正方形 ABCD の内部及び辺上にあり、 $x$  座標、 $y$  座標がともに整数である点の個数を求めなさい。

(図は略)

**正答** 9 個

#### 【解答の状況】

関数  $y = ax^2$  の特徴について理解が十分ではなく、偶数個の解答が多くみられるなど、原点を捉えていない解答がみられた。

#### 【課題】

関数の特徴を、表、式、グラフで捉えるとともに、それらを相互に関連付けることで、関数についての理解を深めること。



《問題例②》

9 (略)

(1) (略)

(ア) (略)

(イ) 過去のオリンピックにおける日本のメダル獲得数を調べたところ、金メダルの獲得数が10個以上であった大会が6回あることが分かった。

表2は、その6回の大会①～⑥における金、銀、銅メダルの獲得数についてまとめたものである。

表2中の  $a$ 、 $b$  にあてはまる数を求めなさい。

表2

	①	②	③	④	⑤	⑥	最大値	中央値	最小値
金メダル	12	16	10	$a$	13	11	16	12.5	10
銀メダル	8	9	8	5	8	7	9	8	5
銅メダル	21	12	14	$b$	8	7	21	10	7
合計	41	37	32	29	29	25			

【考え方】

大会④のメダルの個数と合計から、  
 $a + b = 24$  …①

金メダルの個数、最大値及び中央値から、 $a$ の値は13、14、15、16のいずれかとなる。

また、銅メダルの個数、中央値及び最小値から、 $b$ は7、8のいずれかとなる。

$b = 7$ のとき、①から、  
 $a = 17$

となるが、金メダルの個数の最大値を満たさない。

$b = 8$ のとき、①から、  
 $a = 16$

となり、金メダルの個数の最大値を満たす。

正答  $a$  16  $b$  8

【解答の状況】

代表値の意味について理解が十分ではなく、最大値を超える個数となる解答や合計の個数と合わない解答が多くみられた。

【課題】

代表値や資料の散らばりに着目してその資料の傾向を読み取ること。

4 今後の学習指導に向けて

○ 基礎的・基本的な知識・技能の定着

関数 $y = ax^2$ を学習する際に、既習事項である比例、反比例や一次関数を取り上げ、それらと比較することで関数の理解を深めるなど、関連する内容を意図的に取り上げ、基礎的・基本的な知識・技能の一層の定着を図る。

○ 言葉や数、式、図、表、グラフなどの相互の関連を理解する力の育成

根拠を明らかにし筋道を立てて体系的に考えたり、説明し伝え合ったりする活動の充実を図ることで、言葉や数、式、図、表、グラフなどの相互の関連を理解する力を育成する。

○ 事象を数学的に表現する力の育成

日常生活や社会における事象を数学と結び付けて考察したり処理したりする活動を通して、数学を利用することの意義を実感できるようにするとともに、数学的に表現する力を育成する。

# 理科

## 1 出題の特徴

- 自然の事物・現象について、基礎的・基本的な知識・概念や原理・原則を理解しているかをみる問題を出題した。
- 目的意識をもって観察、実験を行い、得られた結果を科学的に考察し、表現できるかをみる問題を出題した。
- 自然の事物・現象を客観的に捉え、合理的に判断し、筋道を立てて考察・推論できるかをみる問題を出題した。

## 2 結果の概要

- 自然の事物・現象についての基礎的・基本的な事項に関する問題については、おおむねできていた。
- 観察、実験の技能を問う問題、図をかく問題については、必ずしも十分とはいえなかった。
- 観察、実験で得られた結果を基にして考察し判断する問題や、条件を制御しながら実験を構想する力については、いま一步であった。

## 3 課題がみられた問題例

### 《問題例①》

6 (略)

[実験 2]

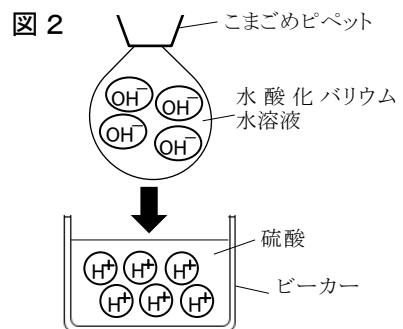
- ① うすい硫酸をビーカーに入れた。
- ② ①のビーカーに、こまごめピペットでうすい水酸化バリウム水溶液を少しずつ加えた。

(略)

(4) 図 2 は、[実験 2] の②の操作をモデルで示したものである。図 2 のように、水素イオン  $\text{H}^+$  が 6 個存在する硫酸に、水酸化物イオン  $\text{OH}^-$  が 4 個存在する水酸化バリウム水溶液を加えたとする。

このとき、反応後にビーカー内に残っている「バリウムイオン」と「硫酸イオン」の数はいくつになるか。次のア～キからそれぞれ 1 つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 0 個    イ 1 個    ウ 2 個    エ 3 個  
オ 4 個    カ 5 個    キ 6 個



**正答** 「バリウムイオン」：ア      「硫酸イオン」：イ

**【解答の状況】**

「バリウムイオン」をア、「硫酸イオン」をウとする解答が多くみられた。

**【課題】**

実験結果を予想する学習活動を通して、科学的な見方や考え方を育成すること。





